

## 生徒の学習形態に応じたコンピュータ活用の試み

沖縄県 糸満市立糸満中学校 呉屋光広

### ○実践の目的

これからの学校教育においては、創意工夫を凝らした特色ある教育活動をし、自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し行動し、「生きる力（よりよく問題を解決する資質や能力など）」をはぐくむ取組を推進することが重要である。そこで、本校の実情をふまえ、各教科・領域における授業での個別またはグループ学習において、それぞれの進度に応じた内容をコンピュータで進めることにより、理解や習熟に応じた指導、個別指導や繰り返しの指導、不登校生徒への学習指導など、一人一人を大切にしたいきめ細かな実践を試みた。

### ○実践1「学習履歴型ドリル」の活用

糸満市では本年度より、市内の小中学校を結ぶ地域イントラネット上で、「学習履歴型ドリル」の活用が可能となった。このドリルは、総計5万問以上の問題データベースから利用者の理解度に応じて問題が抽出される仕組みになっている。正答率だけでなく、回答までにかかった時間も測定できる。学習履歴は全てサーバーに蓄積され、生徒が学習を振り返ったり、教師が子供の学習情報を分析し指導に役立てたりすることができる。この「学習履歴型ドリル」を活用して下記の実践を行った。

#### ① 3学年数学科の授業における活用

コンピュータ室において、一人一台のパソコンを活用して、単元終了時のドリル学習を行った。

#### ② 3学年数学科の少人数クラスにおける活用

本校では基礎的・基本的事項が充分定着できない生徒を中心に、個別の指導を行うため、習熟度別による少人数の授業に取組、定期的に教室にノートパソコンを持ち込みコンピュータを活用したドリル学習を行っている。

#### ③ 45分休憩時間での受験に向けての自主学习

生徒の要望を受け、コンピュータ室を解放し、3年生を中心に自主学习を行っている。

#### ④ 相談室（不登校生徒）での活用

本校には不登校の生徒への対応として専任の教育相談員の配置や相談室が設けられている。教室には行くことはできないが、相談室へは入室できることで学校へ登校できる生徒がいる。その生徒達は相談室にて自習をすることがほとんどである。そこで、そこにノートパソコンを持ち込み、無線LANでイントラネットへ接続しドリル学習を行った。

### ○実践2 音楽科「弦楽器に挑戦！！」

今回の器楽指導では、以下の点に考慮し一つの学級2グループに分け、郷土の楽器「三線」と「ギター」を体験させることにした。理由の一つは、演奏技術の定着をはかるには少人数での活動と同時期に異なった弦楽器の奏法を体験することが有効でないかと考えられるからであり、もう一つは必修の楽器（三線）が20台余りしかなく一斉授業が難しいからである。

校舎内に無線LANと簡易サーバが導入され、コンピュータ室以外でのパソコンの使用が可能となり必要なときに必要な資料をみることのできる環境となった。

パソコンは動画再生が自由にできる。短時間で演奏技術を習得するには実際の手の動きを見ることが最も有効であり、複数のコンピュータを使用することは生徒の要求に即座に応えられる。今回は、自作のギター学習用コンテンツを使用した授業展開を試みた。